

# 少連協ニュース

○発行/足立区少年団体連合協議会 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275  
○発行人/山本輝夫 ○編集/調査広報部 清水 川田 小澤 市川 大関 鈴木(春) 山岸 辻村 岩井 熊澤 仁科 常田



▲ウォークラリー～問題わかるかな？



▲つなげよう！聖火リレートーチ



▲ドッチビー～みんな真剣



▲祝全子連表彰～押部子ども会

## 立春を迎えて



足立区少年団体連合協議会  
会長 山本 輝夫

令和4年立春を迎え感慨深いものがあります。昨年と同様に新型コロナ禍の影響は事業の縮小・中止が余儀なくされ、子どもたちの期待に十分応えることが出来ませんでした。

子ども会・地少協・スポーツ少年団、関係協力団体のご理解とご支援に、心から感謝と御礼を申し上げます。

特に変異株オミクロンの感染拡大は社会・経済に大きな影響を与え、まる2年の経過にも、未だ明るい道筋は見えません。子どもたちの感染が気掛かりです。

「まん延防止等重点措置」の適用による児童・生徒は「登校学習」・「リモート学習」の何れもデジタル授業を取り入れることになりました。

未来を託す子どもたちは一人一台のデジタル端末に慣れ親しみ、豊かな思考力と創造力を育むツールとして授業に生かされています。まさにGIGAスクール構想が一步踏出す結果になりました。不透明な時代を乗り越えるために行政・学校・児童生徒は新常态に果敢に取り組んでいます。

今こそ、様々な課題と問題に取り組み、叡智を寄せ合い学ぶ時なのでしょう。子どもを大切にする風土と共に、子どもの活力、可能性を高める体験活動の重要性を子どもから多くを学びました。新常态を生み出す「行動変容」は子どもたちの未来へ繋がる懸け橋です。

かつての子どものように胸を弾ませる立春です。

### 目次

山本会長あいさつ・・・P1  
ジュニアリーダークラブ・・・P5

教育長あいさつ・・・P2  
各地少協の活動・・・P6

総会・新任あいさつ・・・P3  
ジュニアリーダー研修会・・・P7

育成者セミナー・・・P4  
都子連育成研究協議会・・・P8

## 足立区教育長にインタビュー

コロナ禍が続く中、様々な活動が制限されている状況において、令和3年4月より、足立区教育委員会に、新しく教育長に就任された大山日出夫様に現在の学校教育の現状等についてお話を伺いました。

日頃より少年団体連合協議会の皆様には青少年の健全育成にご尽力いただきありがとうございます。以下それぞれの課題について現状や考え方を述べさせていただきます。



▲大山日出夫教育長

### ○コロナ禍における学校教育について

学校内では、原則マスク着用ですので、教員が子どもの表情を直に見ることができず、子どもも表情をコミュニケーションの手段にできない状況です。感染リスクの高い活動の制限も長い期間に亘っており、体育・音楽・家庭科等の目標達成を大きく阻害しています。児童生徒同士の協働・対話・グループワーク等の活動制約も生じており、異学年交流の機会や、上級生への尊敬の念や下級生への慈しみを育む機会も失われています。

教育委員会としては感染拡大防止を基本としながらも、本年1月のまん延防止等重点措置時には、コロナ感染が不安なお子様は自宅でタブレット端末を通じたりモーター授業に参加できるように、また、登校する場合でも、午前中4時間授業で給食を食べて下校する選択登校としています。(※昨年9月にも実施いたしました)が、特に、不登校の児童・生徒からはクラスの様子がよく分かったと非常に好評でした。タブレット端末も最大限活用してこの難局を乗り切りたいと考えています。

※令和4年2月28日より、6時間の通常授業に切り替わっています。

### ○子どもたちに身に付けてほしい力

足立区の教育大綱は「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」です。現在の小中学生が社会人として活躍していく時代は、グローバル化がさらに進行していて、外国の人達と日常的にコミュニケーションをしながら仕事をしていくことが当たり前になってくると思います。ですから必要な力は英語力とかコミュニケーション能力といたるところですが、もちろんこれらの能力は必要であるとして、その前提として、厳しい環境から逃げることなく、その困難に立ち向かい、自立して生き抜く力が絶対に必要であると考えています。

### ○いじめ問題への対応について

各学校では、年に3回いじめに関するアンケートを実施しています。直近の11月に行われた結果では、前回調査と比較していじめの件数が減少しておりますが、引き続き教員による丁寧な見守りを実施していく予定です。いじめは決して許されないことであり、どの学校でも、どの子どもにも起こりうるという認識をより一層深め、細心の注意を払いながら、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきたいと考えています。「いじめは人間として絶対に許されない」という認識を児童生徒一人一人に徹底することはいじめの根絶を図っていきたいと思っています。

### ○少年団体連合協議会の皆様への期待

子どもたちが大人と接する機会が明らかに減っていると感じています。少年団体連合協議会の皆様方におかれましては、地域の子どもたちの良き相談相手であったり、時には注意をしてくれたり、また、様々な体験をさせてくれる頼もしい存在であり続けてほしいと思っています。誠に勝手なお願いですが、どうぞよろしくお願ひします。



▲大山教育長と山本少連協会展長

### 総会を終えて、3年度にあたり、

令和3年度も残念ながら書面議決で総会となりました。本来であれば皆様と情報交換をしながら子ども会活動の未来に向けて前向きな話し合いをするはずでした。

地少協、少連協共に活動が停滞し、この2年間のブランクは本当に大きいと感じています。

出来る事から少しずつ、当たり前が当たり前でなく変化しなければなりません。会議の形も変える必要があるかもしれません。皆さんと一緒に新しいスタイルを確立していきましょう。

そして、新型コロナウイルス感染症の沈静化と同時に活動が再開できるように準備をしていきましょう。昨年度に引き続き大役を仰せつかりましたが、皆様に協力をいただきこの大変な状況を乗り越えていきたいと思っています。ご協力よろしくお願いいたします。

副会長・事務局長・総務部長 四宮淳司

#### 令和3年度役員

- 会長 山本 輝夫
- 副会長 四宮 淳司 (兼事務局長・総務部長)
- 田中 加代
- 鹿浜 安弘 (兼育成部長)
- 日高 佐和子
- 下島 泰則
- 市川 元一
- 高橋 利男
- 大関 英広
- 中村 清代
- 調査広報部長 清水 康弘
- 事業研修部長 関 昭男
- 会計監事 山崎 金壽
- 岩澤 明美



### 新任役員あいさつ

令和3年度少連協総会において副会長の大役を拝命致しました。第五地少協会長として5年目の経験はまだまだ浅く、学ぶことの多い日々ですが、先ずは足元にある課題から確実に取り組んでいきたいと思えます。

コロナ禍において、多くの行事が中止になっています。様々な楽しみを奪われた子ども達に、何かしら希望・思い出等作る機会を与えてあげられるのは、地域の力であると信じ活動をしていきたいと思っています。

副会長 田中加代

この度、副会長を仰せつかりました。

前任の大林英夫副会長、鈴木春男副会長、鈴木健治副会長が長年にわたり粉骨砕身され、これまで成長してきた足立区少年団体連合協議会を執行役員としてお引き受けすることは身の引き締まる思いがいたします。

なにごん初めての副会長職、百戦錬磨の前副会長の皆様には及びませんが、力の限りを尽くす決意でございます。

どうぞ皆様のお力添えよろしくお願いいたします。

副会長・育成部長 鹿浜安弘

「つたえる」

足立区の子どものこと。子どもに関わる大人たちのこと。子供会、子供会育成会、地区少年団体協議会、そして、足立区少年団体連合協議会が果たす役割です。つたえることは大事なことです。終わりではなく始まりです。この気持ち、姿勢、スタンスをもって活動に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

調査広報部長 清水康弘

### 3年度の行事

- 5月15日 総会 (書面議決)
- 6月 7日 事務局会議
- 6月27日 育成者セミナー
- 10~12月 ジュニアリーダー研修会
- 11月 日帰り研修会 (中止)
- 1月 7日 新年会 (中止)
- 2月11日 ドッチビー大会 (中止)
- 3月 ジュニアリーダー宿泊キャンプ (中止)



事業研修部長 関昭男

令和3年度より事業研修部長という大任を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いいたします。今年度も各地少協での事業・活動は中止や延期を余儀なくされている事と思えます。事業研修部では子ども育成者セミナー、ドッチビー大会開催の事業計画を立て、さる6月27日(日)には「子ども会育成者セミナー」を皆様のお力添えをいただき終える事が出来ました。紙面をお借りし心より厚く御礼申し上げます。

さらに令和4年2月11日(金)には第14回「ドッチビー大会」開催を予定しております。(※本大会は12、13回大会が中止になり3年ぶりです。現在の状況下では子ども達の活動は厳しく制限され、ご承知のよう学校行事はじめ地区での行事も開催されておりません。子ども達が一致団結したチームワークを発揮し、笑顔あふれる楽しい大会になります事を念じております。関係各位並びに各地少協の皆様方にお力添えいただき、部員と共に会合を重ねながら開催いたしますのでよろしくお願いいたします。

※ドッチビー大会は中止になりました。

# 育成者セミナー

## 子ども達が生きる 社会と育みたい力

6月27日(日) 東京芸術センター(天空劇場) に於いてコロナウイルス感染拡大予防による緊急事態宣言によって自粛していた事業を2年ぶりに開催することができました。

立教大学特任准教授 高井正様を講師にお迎えし「子ども達が生きる社会と育みたい力」育成者に求められる視点と行動」について講演いただきました。



▶高井講師  
元足立区社会教育主事  
(36年間勤務)



▲客席まで降りて参加者とコミュニケーション

○人生百年といわれるこれからの社会、人生の選択肢が増加し、今までの人々の生き方がモデルとして意味をなさなくなる今後、私たちは新たなアイデンティティ・役割などを身につけるための学びが求められる。生涯学習・変動性・不確実性・複雑性・曖昧性を特徴とする現代社会の地域・人々の課題の解決策の決定打がないからこそ子どもたちにはレジリエンス(強風でも折れない竹のようなしなやかな強さ)とネガティブケイパビリティ(答えのない事態に耐える力)を育むことが求められます。

○AIなどが進む社会において人と人が関わることは代替えが効かず、子ども会育成者の役割がますます大切になっていきます。

○今こそ子どもたちに『コミュニケーション能力』『独創性』『好奇心』『聞く力』を身に付けてもらえるよう育成者が創造力、構想力を発揮していき

ましよう。  
今まさにコロナ禍において、子どもたちはTVから得る情報等理不尽に感じ、行事などの中止に心折れるような日々を送っています。また育成者、指導者は緊急事態宣言下活動をしないことに慣れてしまった昨今ですが、本日参加された方々を中心に各団体にコミュニケーションを図り、課題を共有するとやるべき行動が見えてくるのでは？ まずは、出来ることから一歩ずつ始めてみましょう。



▶感染予防対策としてソーシャルディスタンス確保のため、各地少協参加者3名限定で行われ、検温・消毒・マスク着用、前後左右を空けて着席

### 子ども会活動の実施の判断について

地域ごとの感染状況を十分把握し、地域の方針や家庭の理解と協力を得ながら、新型コロナウイルスを正しく恐れ、子ども会活動を実施することが大切です。



- ①感染リスクの大きさを予測し、それにより準備の仕方や管理体制を十分考慮すること。
- ②そのために、日頃から正しい知識を得ることと適切な対応が求められること。
- ③地域(居住地と活動場所)の学校や自治体の対策に基づくこと。
- ④参加者とともに保護者の理解と協力を必ず得ること。
- ⑤参加者とともに感染防止対策を考える。事前・活動中・事後対策を徹底すること。
- ⑥新しい生活様式に基づく子ども会活動を行うこと。
- ⑦3密を避けるため、オンライン活動を取り入れるなど新しいことにもチャレンジすること。

(公益社団法人全国子ども会連合会「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(令和3年8月2日付け)」より抜粋)

令和3年度足立ジュニアリーダークラブ



▲総会～真剣なジュニアたち

令和3年4月4日の定例会で令和3年度足立ジュニアリーダークラブ運営委員会の役員選挙が開催され、左記の運営委員が選出されました。

- 代表..高木真宙(たかぎまひろ) 高2
- 副代表..鶴岡茉凜(つるおかまりん) 高2
- 書記..森 彩美(もりあやみ) 高1
- 小松月奈(こまつるな) 高1
- 北島綾乃(きたじまあやの) 高1

5名の運営委員が提出した令和3年度の運営方針・年間事業計画等は総会で決議され、今年度の事業が始まりました。本年度は4月に19名の中学生が加入し区内在住の中学生・高校生68名で構成されます。野外活動・社会貢献活動等を中心に活動していきます。本年度の目標は「新しい活動ニューノーマルの始まり」です。昨年から今まで当たり前のようだったキャンプや研修会などの活動が一切できなくなり、これからのようにしたら活動できるか新しい活動スタイルを今年一年かけて確立できればと計画しております。ご存じの通り、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令されたため、今年度の定例会はまだ3回しか開催できていない状態ですが、10月からの半年間、活動できなかった分取り返しました。主な活動は毎月第1日曜日に開催する定例会です。定例会では、活動の情報交換や個々の技術を上げるためのレクリエーションなどの研修を行います。

子ども達と交流する活動は10月17日から始まり、区内4会場で開催されます。小学校5・6年生を対象にしたジュニアリーダー研修会では、7名の高校生リーダーがカウンセラーとして、そして中学生リーダーたちも研修会会場でお手伝いをします。さらに、区内中学生を対象にしたジュニアリーダースパー研修会も始まります。私たちも研修会に参加し、中学生と交流しながらジュニアリーダークラブに勧誘していきます。3月にはスキルアップ宿泊キャンプの開催を計画しています。3月には※スキルアップ宿泊キャンプは中止となりました。 ※



▲ジュニアリーダー研修会のお手伝い



▲じゃんけんゲーム

# 地少協の活動

## 未来へ

第五地少協会長 田中加代

コロナ禍のため、約2年間休止を余儀なくされていた第五地少協の活動が12月5日(日)西新井第一小学校をお借りし、今年度の主たる事業にオリンピック記念事業を加え開催することができました。

夏休みに東京パラリンピック観戦も緊急事態宣言のために中止になり、いろいろな事をあきらめることが日常化している今だからこそ子ども達のためへの思いが繋がった行事でもありました。

ドッジビーの練習会・運動会のパン喰い競争のコロナアレンジ・東京2020聖火リレートーチでのトーチキッズ。

トーチキッズは、感染予防の為家族で行いましたが、本物に触れることで今夏東京五輪が開催されたことを記憶してほしい、未来への希望を持ち続けてほしいという役員の願いも伝わったと思っています。満面の子ども達笑顔は何よりの証でした。



▲トーチキッズ



▲走れ 走れ~コロナアレンジ運動会

# ウォークラリーとスポーツ大会を実施

第六地少協会長 大関英広

現在のコロナ禍にあって、第六地少協では12月5日(日)午前中、都立舎人公園で毎年恒例となっているウォークラリーを開催しました。親子25チーム60人ほどの参加者があり、園内を「レーガン桜の種類は?」「テニスコートは何面ある?」「大池西側の桟橋にはあずま屋がいくつある?」などの20題の質問に公園地図を見ながら挑むとともに、初冬の散歩を楽しみました。ランチャイムは、配られたお弁当を手に、参加者はあらためて親子で寛いでいました。

また、新年1月16日(日)午前10時、本木小学校の体育館において、小学生およそ30人がドッジビーによるスポーツ大会を行いました。地少協役員のもとで、ランニング・準備体操・パス練習のあと、本木小や寺地小の混合の2チームに分かれ、5分ほどのドッジビーを10試合くらい実戦しました。子どもたちは元氣よく動き回り、どの子の顔にも軽い汗が見られましたが、まるでコロナを吹き飛ばしたような笑顔があふれていました。終了時には、おにぎりや飲み物のお土産を手にご満悦の様子でした。



▲ドッジビー 楽しかったね



▲答えあっているかな?

# 球技大会開催

鹿浜地少協会長 鹿浜安弘

去る11月14日北鹿浜小学校にて第52回鹿浜地区少年団体協議会球技大会が開催されました。大会競技は学童野球及びドッジボール。鹿浜地少協内の子ども会に所属している、学童野球3チーム・ドッジボールチーム5チームが参加。コロナ禍の中の大会でマスクをしながら競技に参加する子どもたちも大勢おり、学校側も各チームへ控室を準備していただき、無事大会を開催することができました。

大会成績は次の通り。

野球の部 優勝：押部第一子ども会 押部ファイターズ

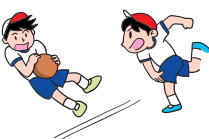
ドッジボールの部 優勝：島子ども会



▲優勝 押部第一子ども会 押部ファイターズ



▲優勝 島子ども会





# ジュニアリーダー研修会

指導者クラブ代表 境田 則明

本年度のジュニアリーダー研修会は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、10月17日からの開催となりました。体育館で2回、野外で2回いずれも午前・午後の日程で行いました。

今年、このようなイレギュラーの中、体育館での指導も従来の大人の講師陣から、大学生のチューター、高校生のカウンセラー中心の指導として実施しました。少しでも研修生に近い若者が前面に立つ事により、これまでと違った研修生がいきいきとしたジュニアリーダー研修会になるようにといった願いがあつての事だと思えます。また、講師の先生方も遠巻きからサポートして皆でチューター達を支えるやり方は、まさに次世代につながるやり方として今後においても期待したいと思います。

また、野外研修では、コロナ禍でも研修生

に少しでもキャンプの雰囲気味わってほしいと、野外炊事体験では、ご飯とゆで玉子作りに挑戦しました。また、野外活動では、ファイヤーの感動を伝えるべく、チューター、カウンセラー、ジュニアリーダー、講師が一体となって、研修生と火を囲みジェスチャーソング等の研修ができた事は、たいへん良かったと思えました。

本当なら、大自然の中でのびのびとキャンプができれば良いのですが、少しでもそれに近づけようとした企画は、良かったと思えました。今後は、早くコロナが収束し、またのびのびと研修会ができる事、祈っております。また、コロナ禍においても「足立区のジュニアリーダーは、頑張ってるぞ!」といった思いが皆に伝わった一年であったと思えました。関係者の皆さんお疲れ様でした。そしてありがとうございます。今後ともよろしく願っています。



▲ファイヤーの感動



▲研修後全員集合! 並んで並んで



▲感染対策バッチリ ポリ袋で炊飯  
おいしくできたかな?



▲大かまどで〜できあがり楽しみ!



▲かまどでご飯

# 第50回「東京都子ども会育成研究協議会」が開かれました

令和3年11月14日(日)、全国子ども会連合会・東京都子ども会連合会・八王子市子供会育成団体連絡協議会が連携し、「東京都子ども会育成研究協議会」を開催しました。会場となった八王子市学園都市センターには、都内の子ども会関係者46団体が集まり、「子供会の今後の在り方(方向性)について」をメインテーマとして、2年に亘るコロナ禍で子どもたちの体験はどうあるべきかを講師から学び、参加者相互に討議しました。



▲祝表彰～新田ジュニアクラブ

この育成研では、まず、「自然の中の集団体験を通して子供たちは何を学ぶのか」(東京学芸大学学長補佐・小森伸一先生)から「子供たちには折れない心を身に付けられるよう育てたい」などの基調講演があり、その後、第一部会「これからの子供会は何を求められているのか?」、第二部会「子供に寄り添える子ども会育成者の発掘と育成について」、第三

- |    |       |           |
|----|-------|-----------|
| 個人 | 令和2年度 | 鈴木健治氏     |
|    | 令和3年度 | 菅原紀和氏     |
|    |       | 西村秀彦氏     |
|    |       | 日高佐和子氏    |
| 団体 | 令和2年度 | 押部子ども会    |
|    | 令和3年度 | わかば子ども会   |
|    |       | 新田ジュニアクラブ |
|    |       | 東子ども会育成会  |



▲分科会の様子

部会「コロナ禍で密にならないゲーム&クラフト」、ジュニアリーダー部会「ソーシャルディスタンスを意識したコロナ対策ゲームの開発・共有」の各分科会にそれぞれ参加者が分かれ、日ごろの活動から離れ、講義と討論などを通して、あらためて活動に関わる知識や実技などを再認識できる機会となりました。

なお、令和4年度の第51回「東京都子ども会育成研究協議会」は、主催地が足立区となっております。東京都子ども会連合会・齊藤武理事長から足立区少年団体連合協議会・山本輝夫会長へ都子連旗が引き渡され、私も少連協としては大きな研修会を運営する重責を担うこととなりました。



▲都子連旗引き渡し(八王子市→足立区)



**編集後記**

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍での活動となりました。

企画をしても中止になることが多い状況が続き、普通に行事を行っていたことが、どんなに素晴らしいことだったのかと、しみじみと感じる今日この頃です。

来年度も、子どもたちの楽しそうな顔を見ることが出来る活動をしていきたいと思っております。

皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。